

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 松山市立新玉小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他（ ）

所在地 〒 790-0011

E-mail ara-eof@esnet.ed.jp

Website http://aratama-e.esnet.ed.jp/

児童生徒数 男子 268 名 女子 284 名 合計 552 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☒ 防災
- ☒ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか（ ）

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 【本校の取組の概要】

##### 〔概要〕

本校では、「地域と共に生きる力」を育成することを目標に、「地域を知る」「地域とかわる」「地域に尽くす」を活動の三本柱として、生活科、総合的な学習の時間を中心にESDに取り組んでいる。愛着のある地元地域をフィールドに、どの学年も実態に応じたテーマを設定し、課題解決に向けて、児童が主体的に学習を行っているのが特徴である。

この各学年のテーマに応じた学習に加え、アフリカのモザンビーク共和国【以下：モザンビーク】と関連のある学習を全学年で行っている。2007年から始まり、今年度で9年目を迎えており、本校の特色となっている学習である。各学年のテーマに応じた学習で様々な分野の広い視点・知識を学び、モザンビークに関わりのある学習で、モザンビークについて様々な角度から6年間を通して深く掘り下げて学び、双方を関連付けて思考しながら多角的で多様な学びができるT字型学習が展開できるようにしている。持続可能な社会を創造していくための人材育成のために、効果的な学習プログラムとなっている。

本校は、モザンビークの学習に長い間関わってくださっているNPO法人えひめグローバルネットワークをはじめ、地域、大学、企業、団体等多様な方とのつながりが定着し、専門的な知識や豊富な経験等を生かし、体験やつながりを重視した学習を展開することができるようになってきている。

以下、各学年の取組【一部抜粋】と、夏休みに行った活動「サマーチャレンジ」の概要について述べることにする。

## 第1学年の取組

教科等：生活科

単元名：あそびのひろば （はるのあそび）（むかしのあそび）

協 力：新玉公民館 地域の方々（約20名）

目標	<p>○ 春の公園や地域のれんげ畑などで、樹木や草花に親しんだり、遊具を使ったりして楽しく遊ぶことができる。（はるのあそび）</p> <p>○ 今の遊びをもとに、昔の遊びにも関心をもち、どのような遊びがあったのか調べたり、お年寄りから遊び方を教えてもらったりしながら、昔の遊びには色々なものがあることに気付く。（むかしのあそび）</p>
概要	<p>・ 生活科では、年間を通して春・夏・秋・冬など、それぞれの季節を感じながら遊んだり、様々な公園・自然・人などに関わり合って楽しさを味わったりする活動を行う。「遊び」を通して、地域には色々な自然があり、たくさんの方がいることに気付く。「れんげ草まつり」や「むかしの遊びの会」を通して地域のお年寄りの方と関わり合いながら、地域や人を知り、そのよさを感じる機会をもつ。</p>

### 【活動の様子】



（れんげ草まつり）



（むかしのあそびの会）

### 【 成果と課題 】

- ・ 地域の方には、春に「れんげ草まつり」で関わっていただき、1月に「むかしのあそびの会」で一緒に昔の遊びを楽しんだり、給食を食べたりする活動を行った。れんげ草まつりでは、自分の住んでいる地域には、すてきな場所があること（今年度は、天候の都合で残念ながられんげ畑ではなく、体育館で行った。）を知り、「むかしのあそびの会」では、地域の方の優しさや温かさを感じることができた。
- ・ 児童にとって自分の住む「地域」や「地域の人」とのつながりは大切である。地域の方と一緒に活動できるこのすばらしい学びの機会を行事的に終わらせるだけでなく、より児童の思いに沿ったすてきなつながりの場にできるよう、内容や方法などについて工夫を加えていきたい。

## 第2学年の取組

教科等：生活科

単元名：大きくそだて わたしのやさい ～サツマイモ～

協 力：NPO法人 えひめグローバルネットワーク

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 野菜の調理を通して、自然との関わりに関心をもち、自然を大切にしたり、自分たちの食と世界の食とのつながりを感じたりすることができる。</li> <li>○ 自分の生活が、多くの人や自然に支えられていることに気付くとともに、自分ができることを主体的に行おうとすることができる。</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜の栽培や調理の活動を通して、「野菜の成長に気付き、生き物の命を大切にすること」や「自分の生活が多くくの事象に支えられていることに気付くこと」をねらいとしている。1学期から育てたサツマイモを収穫し、それを調理して食べるだけではなく、サツマイモの茎や葉を使った調理を体験する。自分と違う国（モザンビーク）の料理を食べることで、他の国への興味をもたせる。</li> </ul>

### 【活動の様子】



（ 竹内氏と一緒に「フォーリャ デ バタタ ドウッセ」づくりに挑戦 ）

### 【成果と課題】

- ・ 児童が生活科の学習で育ててきたサツマイモを使用し、自分たちで協力して調理して食べた。また、NPO法人えひめグローバルネットワークの竹内さんたちの協力を得て、モザンビークに伝わる「フォーリャ デ バタタ ドウッセ」というサツマイモの茎や葉を使った料理にも挑戦した。普段ならば当然のように捨てる茎や葉の部分が食べられるという驚きや、自分の国とは違う食文化に触れることができた。
- ・ サツマイモを育てる活動が、食べる活動につながり、さらにはモザンビークという国の食に触れる体験にもつながった。今後も、サツマイモを育てる活動から、食に関わる人とのつながりに気付いたり、いろいろなイモに興味をもったりするなど、児童のわくわくするような学びにつなげていく可能性があると感じる。

## 第2学年の取組

教科等：生活科

単元名：みんなでいこうよ つかおうよ

協 力：松山市コミュニティーセンター 松山市中央図書館

目標	○ 身近な公共施設へ行ったり、施設を利用したりする活動を通して、公共施設やそこにある公共物はみんなで使うものであることや、それらを支えている人がいることが分かり、大切に利用しようとすることができる。
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のすぐ隣にあるコミュニティーセンターは、児童にとって最も身近な公共施設である。その中にある体育館、カメラシアホール、松山市中央図書館で、施設の様子を詳しく知ったり、働いている人へインタビューをしたりしながら公共施設がみんなのためにつくられていることや、それらを利用することで自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付く。</li> </ul>

### 【活動の様子】



(図書館で話を聞く児童)



(体育館の見学をする様子)

### 【成果と課題】

- ・ 昨年度までは、「まちたんけん」で訪れる場所の一つとして、数名がコミュニティーセンターを取り上げていた。今年度は、学年全員が出掛けて行き、一つ一つの施設を詳しく案内していただいたりインタビューに答えていただいたりすることができた。実際に図書室を利用する体験をすることもできた。
- ・ 学校の隣にあるという好立地を考えると、今後繰り返し訪れたり、調べ学習の中で中央図書館を活用したりすることも可能である。今後、学年が上がっていったときにも自分で課題を見つけ、追究していく中で図書館利用は欠かせない。この時期に全員が図書館に出かけたことは、今後の学びに大きくつながる体験となった。今後の活用の仕方について、工夫をしていきたい。



### 第3学年の取組

教科等：社会科

単元名：みかん農家の仕事 ～みかんの旅～

協 力：J Aえひめ中央

目標	○ 農産物の生産に関わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色や、他地域などとの関わりを理解するとともに、農家の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとする。
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「はたらく人とわたしたちの暮らし」という単元で、地域のスーパーマーケットやコンビニ、商店街などに見学に出かける。働いている方々が、買い物客の願いをかなえたり、商品を売ったりするために、たくさんの工夫をしていることに気づき、自分の生活とつながっていることを学ぶ。</li> <li>・ 「みかん農家の仕事」では、校区内にある J Aえひめ中央の方々のご協力により、みかん園での収穫体験や産直市の見学を通して、農業に携わる人々の苦労や工夫を学ぶ。</li> </ul>

#### 【活動の様子】



(みかん園地で収穫体験)



(地域の食材を使ったバイキング)

#### 【成果と課題】

- ・ 新玉校区には農業に携わる方が少なく、愛媛がみかん王国であることは知りながら、実際にみかん園地を目にする機会は少ない。そこで、J Aえひめ中央に協力を依頼したところ、みかん収穫体験を含む「みかんの旅」が昨年度より実現した。一日をかけ、収穫体験、太陽市の見学、柑橘類の生産・流通・加工品について、野菜ソムリエによる「食」の学びなど、「みかん」を通して、多様な学びの場を与えていただくことができた。同時に、地域食材を使った食事をバイキング形式で提供していただき、「赤・黄・緑の食べものをバランスよく食べる」ことを意識した食の体験も行うことができた。
- ・ このような貴重な学びの場は学校の力だけでは不可能であり、企画、調整、予算等も全面的にJ Aの協力あつてのものである。今後はどのような形であれば持続可能であるのか、しっかり連携を図っていきたい。この体験を授業にどう生かしていくかという単元構成についても検討していきたい。

### 第3学年の取組

教科等：総合的な学習の時間

単元名：ちがう国でもおなじこと

協 力：NPO法人 えひめグローバルネットワーク モザンビーク留学生

目標	○ モザンビークの生活や文化、あそびなどを体験的に知ることを通して、日本とモザンビークの違うところと同じところを知り、世界には様々な文化があることに気付かせると同時に、自分の住む国や地域に興味をもたせる。
概要	・ 自分たちと同じ地球上に暮らすモザンビークの子どもたちに焦点を当て、モザンビークの生活や文化を体験することで、自分たちの生活や文化と違うところ、同じところを感じたり考えたりする。この活動は、世界には様々な文化や生活があることを知り、自分たちの生活や文化に目を向けることにつながる。

#### 【活動の様子】



(モザンビークのカプラナ体験)



(マサラという楽器をふいたよ)

#### 【成果と課題】

- ・ NPO法人えひめグローバルネットワークの協力で、モザンビークの国を知るたくさんの学びの場ができた。モザンビークの国旗や生活について教えていただくと同時に、カプラナを着たりマサラとをふいたり、簡単なモザンビークのおやつを試食したりするというような、児童にとってわくわくする体験をさせていただいた。「食」「服」「音楽」「遊び」など、児童にとって身近で自分の生活と比較しやすい内容を扱ったことが効果的であった。
- ・ モザンビークの留学生がたくさん来てくださり、実際に交流できたことは児童にとって貴重な体験となった。モザンビークという遠い国であるのに、その国の方が自分のすぐ近くにおいて、同じ空間で学習できたことは、モザンビークをととても近く感じる経験となっただろうと感じる。
- ・ 「〇〇が似ているけど〇〇は違う」というように、目に見える部分での似ていることや違うことをたくさん見つけることができた。しかし、3年生の発達段階では、どの国の人にも共通する幸せに生きたい、楽しく暮らしたい、健康でありたいというような思いを考えることは難しい。どんなねらいで学習や体験をさせることが適切であるのかについて、今後さらに検討していきたい。

## 第4学年の取組

教科等：社会科

単元名：火事からくらしを守る

協 力：新玉地区消防団 池田善嗣氏 松山中央消防署

目標	○ 火災から人々の安全を守るための消防署など関係機関の働きや諸機関の連携、地域の人々の協力の様子を調べ、安全で安心してくらせる地域社会や関わる人々の努力や工夫についての見方や考え方を深め、地域の一員として自分にもできることを考え協力しようとする態度を育む。
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署や校内、地域の消防施設設備等の見学、消防士や消防団の人へのインタビュー等、体験的な活動や人と関わる学習活動を通して、火災から生活の安全を守る働きや人々の努力や工夫に対しての考えをもち、自分の安全が、地域社会の働きや地域の人々に守られていることに気付く。消防署だけでなく、新玉地区の消防団や地域の人々の安全を守るための工夫や努力について学ぶことを通して、児童に、自分の安全は自分で守るという意識を高めさせるとともに、地域社会の一員としてできることを考え協力しようとする態度を養う。</li> </ul>

### 【活動の様子】



(新玉消防団の方の話)



(新玉消防団の見学)

- 消防団や地域の人々とのつながりを重視した学習活動を展開することで、「火事から暮らしを守る」という社会的事象を人や社会を通して多面的に見ることができ、ものの見方・考え方の育成につながった。また、消防署や消防団の人々の努力や思いを知ることによって、地域の一員としての意識を高めた。
- E S Dの持続可能な社会づくりという考え方も意識して、「消防団」という素材を教材化したことは、火災、防災という概念にとどまらず、消防団の人の言葉を介して地域の行事への参加意欲や地域愛にも意識を向け、協働的な学びにつながっていくと考えられる。



## 第4学年の取組

教科等：総合的な学習の時間

単元名：あったかハート あらたま

協力：社会福祉協議会 松山市ボランティアセンター しげのぶ清流園  
後藤益男氏 他多数

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある人や高齢者、その人たちの暮らしを支える人の生き方や身近な福祉の問題との関わりを通して、共に幸せに生きていこうという思いや考えを感得する。</li> <li>○ 学んだことを通して、今の自分にできることを考えて実践したり、「これから生きる自分」を思いえがいたりする。</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がいのある人や、その人たちの暮らしを支える人との出会いを重ね、身近な福祉の問題に気づき、自分にできることを考え、実践する。その過程で、ユニバーサルデザインの視点や共生について考え、自分を含めたすべての人に対して、共に幸せに生きていこうという思いを育む。</li> </ul>

### 【活動の様子】



（自立生活センター「星空」の方との交流）



（手話で「こんにちは」）

### 【成果と課題】

- ・ 「自分も含めたすべての人が幸せになる」ことが福祉であるという考えを意識させる学習活動を展開したことにより、障がいのある人を、「共に助け合う存在」「自分たちの知らなかった福祉の問題について教えてくれる存在」と感じる児童が多かった。福祉の仕事に携わる人との出会いを設定したことにより、社会の中で自分の役割を果たす大切さに気付いた。この学習が、自分自身と社会、未来をつなげる一つの要素になったと考えられる。
- ・ 福祉の問題は、一人一人の生き方や社会の在り方に直結している。4年生の発達段階にあった体験活動を工夫したり、出会いの場や単元の構成を工夫したりすることで、よりこの事象について真剣に考え、向き合っていけるようになると思う。

## 第4学年の取組

教科等：総合的な学習の時間                      社会科  
 单元名：1／2成人式をしよう                      砥部焼土地の特色を生かした伝とう工業 砥部町  
 協 力：陶和会 会長 野村和孝氏

目標	<p>総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族やこれまで支えてくれた人への感謝の思いをもち、表現する。</li> <li>○ 大勢の人との関わりの中で、自分の成長を自覚し、将来の自分の姿を思い描く。</li> </ul> <p>社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地場産業を地域の資源として保護・活用している地域の人々の生活の様子を、体験的な活動を取り入れて調べたり地域の特色やよさを考えたりする。</li> </ul> <p>※ 1／2成人式の記念として、砥部焼づくりを体験する。</p>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10歳という節目を迎えるこの時期に、家族にインタビューして小さい頃の様子や家族の思いに触れることで、自分の成長を自覚したり、自分を支える人に対する感謝をもったりする学習を行う。さらに、1／2成人式という形で自分の成長を友達や保護者にも見てもらうことで、自分自身を肯定的に捉えたり、これからの自分を思い描いたりする。</li> <li>・ 社会科で学習した「砥部焼」を、実際に自分の手でつくるという体験とつなげ、10歳の記念として自分の砥部焼作品を残す。</li> </ul>

### 【活動の様子】



(ろくろを使った砥部焼づくり)



(絵付け体験による砥部焼づくり)

### 【成果と課題】

- ・ 社会科と総合的な学習を「砥部焼」でつないだことは、とても自然な形となった。学習の時期としても無理がなく、児童の意識がスムーズにつながった。砥部焼づくりを実際に見たり、絵付けの体験をしたりすることで、社会科で学んだ知識や理解が実感を伴った学びとなった。また、砥部焼職人さんのお話を伺うことにより、生き方について学ぶこともできた。総合的な学習の時間を通して感じたり考えたりした自分の成長を発表で他者に伝えるとともに、自分の「砥部焼」を手にすることで喜びも感じられた。

## 第5学年の取組

教科等：総合的な学習の時間

単元名：わたしたちの地球

協力：松山市エコリーダー 愛媛大学 羽鳥剛史氏 他

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地球環境の様々な問題を知り、地球環境のために自分が出来ることを考え、計画を立て、家庭や地域で実践する。</li> <li>○ 自分の学習成果を友達と共有し、自分たちが地球のためにできることを話し合ったり、友達・家族・専門家の方々と共に行動したりする。</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地球温暖化」「エネルギーを考えよう」「環境の変化と生き物の世界」「森林のはたらき」「食から環境を考えよう」の五つの課題を決め、調べ学習を行う。その活動の一環としてエコリーダーを招き、課題別に分かれ、分かりやすく説明してもらったり、体験活動を通して理解を深めたりし、課題の解決につなげる。</li> <li>・ エネルギーの現状と省エネについて知り、「エコワット」を用いて、家庭で電気利用実態を調べたり自分の家でできる節電行動を行ったりする。</li> </ul>

### 【活動の様子】



(エコリーダーと森林の学習)



(エコワットを使った学習)

### 【成果と課題】

- ・ たくさんの専門家に来ていただき、専門的な立場から課題に対して分かりやすく説明していただいたり、実験や体験活動等を取り入れたりすることで「地球環境」についての学びが充実し、理解を深めたり課題の解決につなげたりすることができた。
- ・ 「エコワット」を使って家庭で節電行動を実践することは、目に見えないエネルギーを数字に表すことができ、自分たちの行動変容で節電が可能となり、その小さな積み重ねが大きな変化につながるということを実感することになった。
- ・ 「地球環境」は大きな課題であり、頭では理解できても身近な問題として捉えにくい難しさがある。地球環境をどれだけ「自分ごと」として学んでいくことができるか、そのためにどのような課題をもって学習を展開していけばよいのかを探っていきたい。



## 第5学年の取組

教科等：総合的な学習の時間

単元名：食から世界を見てみよう

協 力：愛媛学園 玉井道雄氏 調理製菓専門学校学生 新玉公民館女性部の方々  
NPO法人えひめグローバルネットワーク 他多数

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国の食文化について課題を追究し、日本の食文化と比較しながら友達と伝え合う。</li> <li>○ 追究や実践の過程での自分の成長に気付いたり、日本や外国の食文化についての自分の考えをもったりする。</li> <li>○ 外部の方や友達と交流しながら、課題解決に向けて協力して活動する。</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「食」を切り口にして世界に目を向ける。世界各国の食事情は、国によって大きく異なる。人々の生活と密接に関わる食について探究することは、食のみならずその国の文化や風土、暮らす人の思い等に触れることにもつながる。</li> <li>・ 日本と異なる外国の食文化について調べることで、多面的に物事を捉えようとする態度を身に付けることができると考える。また、外国の食文化の実態や多様性を理解した上で、日本の食を改めて見直すことは、児童が日本の食文化への愛着と誇りをより一層感じることににつながると考える。</li> </ul>

### 【活動の様子】



(調理製菓専門学校との連携による本場の味体験)



(インドのスパイスについての話)

### 【成果と課題】

- ・ 前単元では、新玉公民館女性部の方とともに「りんまんづくり」を体験したり、味噌や漬け物などに触れたりして、日本の食について学び、その後色々な国の食についてつながりを大切にしたい学習を展開した。日本との共通点・類似点・相違点という見方で、外国の食文化についてより明確に理解するとともに、日本の食文化を改めて見直すことができた。
- ・ ゲストティーチャーからの聞き取りや外国の食べ物の試食体験などの活動によって、児童は課題を自分の身近なこととして捉え、実感を伴いながら理解を深めることができた。
- ・ 学習計画を立てたり情報収集をしたりする経験不足から、教師の支援が大きなウエイトを占めることとなった。児童の関心や意欲を次の活動に生かし、児童が主体的に学習を進めていけるよう、柔軟な単元構成をしていく必要があるという課題が残った。



## 第6学年の取組

教科等：総合的な学習の時間

単元名：「ゆめにむかって ～わたしらしく生きること～」

協 力： キャリアコンサルタント、フリーアナウンサー

陶芸家 、カメラマン

他多数

目標	○ 最高学年として自分の生活や生き方を見つめ直し、自分が果たす役割と価値について考え、将来にわたってどのような考えをもって生きていけばよいか考える。
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職業の人との出会いの場を意図的に設定することにより、児童の視野を広げ、自分の将来に期待や希望をもたせる。また、働くことの喜びや苦勞、仕事の大切さや厳しさを知り、社会に目を向けることによって、今から自分が準備しなければならないことがあることに気付く。単元を通して、自分の生き方のよさと課題、役割に気付かせ、将来にわたって何を努力すべきなのかを考えさせる。</li> </ul>

### 【活動の様子】



(キャリアコンサルタントとの学習会)



(実際のカメラを手にとる児童)

### 【成果と課題】

- ・ 「なぜ働くのか?」「働く上で大切な力とは?」などキャリアコンサルタントの大内さんからの質問に、児童は、友達と話し合いながら自分なりの答えを見つけようとしていた。夢に向かって自分の力で進んでいくことの大切さを改めて意識することができた。
- ・ 様々な職業に携わる人を学校に迎えることができ、仕事の内容だけではなく、どのような経歴を経て今の職業に就いたのか、どのような信条をもって生活しているかなど、児童が自分自身と向き合うきっかけとなる話をしてもらうことができた。
- ・ 講師の方々の熱い語りから、児童はコミュニケーション力や学び続けることの大切さ、人から感謝される仕事のすばらしさなどを感じ取ることができた。
- ・ 話を聞くという受け身な活動になる場面が多かったという課題が残った。ただ、忙しい中、学校に来てくださる方とは日程調整が欠かせず、児童の思いや願いに沿ってタイムリーに来校してもらうことは難しい。今後、児童が主体的に学んでいけるようにするために、どのような形でゲストティーチャーに関わってもらうか、どのような出会いの場を設定するかが課題である。

## 第6学年の取組

教科等：総合的な学習の時間

単元名：「平和な世界を築くために ～わたしたちができること～」

協力：高山良二氏（カンボジア地雷処理活動）

竹内よし子氏（えひめグローバルネットワーク） モザンビーク留学生 他

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持続可能な社会の実現を目指すために、地球規模でおきている問題を身近なことを手掛かりにして考え、実践しようとする。</li> <li>○ 「平和」な世の中について考え、自分の生活や生き方を見つめ直し、将来にわたって、どのような考えをもって自分が関わっていけばよいか考える。</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平和学習を通して日本に起きた戦争を知り、今の自分たちの生活の過去にあった事実から「平和」について考える。さらに、カンボジアの地雷処理活動をしている方との出会いから、外国の現状を知り、さらには支援活動をしている方の生き方を学ぶ。また、体験型ワークショップ「ハンガーバンケット」を取り入れ、貧困レベルの疑似体験をすることで、世界の不平等さを感じ取ったり自分にできることを考えたりする。さらには、モザンビークの現状や問題について知ることから、あらゆる人々が平和な日々を送ることができる持続可能な社会を実現することの重要性を考える。</li> </ul>

### 【活動の様子】



（高山氏との学習会）



（竹内氏と、留学生マコメさんの話）

### 【成果と課題】

- ・ 様々な方との学びから、世界の現状を知る機会をたくさん得ることができた。世界の不平等さを感じたり、日本との大きな差に驚いたりする中で、自分たちの生活を見直したり、「平和とは何か」について自分なりの考えをもったりすることができた。その中で、自分にも何かできることはないかと考え、学んだことを一人ずつがまとめて発信したり、学校や地域に呼び掛けて募金活動を行ったりするという行動に結び付けることができた。
- ・ 平和学習とキャリア教育には、「自分の生き方を見つめ直す」という目標における重なりが大きい。今後は、並行して行っているこの二つの学習を横断的に捉え直すことで、最高学年として今までの学びの集大成とすることができるのではないかと考える。

## サマーチャレンジ ～ESD (Education for Sustainable Development)

【持続可能な開発のための教育】～

### 1 企画の主旨

現代社会の課題について、身近なところから学び、持続可能な社会づくりの担い手を育む。

### 2 企画の目的

- 本校が実践しているESDの一環として、体験やつながりを大切にした活動を展開する中で、主体的に学ぶ力や関わり合う力を伸ばす。
- 地域・NPO・JA・大学等、様々な方々と連携し、児童の活動の幅を広げることで、課題に対する実感を伴った理解を促し、価値観や行動変容の一助となるようにする。

### 3 企画の概要

#### ① 日時

平成27年7月23日(木) 9時～12時(3時間)

教員集合 : 8時

協力者集合 : 8時30分

#### ② 場所

新玉公民館(住所:松山市千舟町8丁目69-4 電話番号:931-5294)

#### ③ 参加者・人数

小学校5・6年生 97名(希望者)

#### ④ テーマ(活動場所):食(1F調理室)・国際理解(2F集会室)・環境(1F図書室)・キャリア(2F談話室)

#### ⑤ 協力者

【食】 新玉公民館女性部 4名

えひめ中央農業協同組合(JA) 総合企画室

営農部

野菜ソムリエ 計5名

【国際理解】NPO法人 えひめグローバルネットワーク:竹内よし子氏・高山莉葉氏

留学生:愛媛大学 修士課程 マコメ氏

【モザンビーク出身】

留学生:松山東雲女子大学 3回生 タン・チェンター氏

【カンボジア出身】

留学生:松山大学 3回生 チョン・ソンチャン氏

【韓国・平澤(ピョンテク)出身】

内子町教育委員会:ドレーン氏

【ドイツ出身】

NPO法人 国際地雷処理・地域復興支援の会:大西里奈氏

ドイツ(フライブルグ)留学経験者:高木紗弥氏

内子町教育委員会 自治・学習課:久保理恵子氏

【環境】 愛媛大学社会連携推進機構 紙産業イノベーションセンター:深堀秀史氏

まつやま Re・再来館(NPO法人 ふれあいエコクラフ)

愛媛大学理工学研究科生産環境学専攻:羽鳥剛史氏

羽鳥研究室 学生

【キャリア】久米中 竹宮紀子氏

中学生(城西中3年5名)

新玉小教員(26名)

### 4 イベント当日の流れ(全体会司会:茨城ゆみ子)

(全体会(2F集会室):10分・テーマ別学習:2時間50分)

- ① はじめのあいさつ【新玉公民館長 田村昭久氏・新玉小学校長 城本すみ江】
- ② 協力者の自己紹介
- ③ 4つのテーマに分かれて活動
- ④ 終わりのあいさつ(各テーマ毎に行い、解散)

## 【活動の様子】

### 国際理解

#### ① ワークショップ（貿易ゲーム）

資源や道具を不平等に与えられた複数のグループ（国家）の間で、できるだけ多くの富を築くことを競う、貿易のシュミレーション・ゲーム。貿易を中心に、世界経済の動きを擬似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考える。



（貿易ゲーム）

#### ② 4グループ（国）に分かれての交流

モザンビーク・ドイツ・韓国・カンボジアの国や地域のことを教えてもらったり、質問をしたりしながら新聞（模造紙）をつくった。城西中学校の生徒も参加した。また、国ごとに、できあがった新聞を提示し、各国の有名な物や生活の様子などについて発表した。



（各国に分かれて新聞作り）

#### ③ ドラムサークル

参加者全員で太鼓やタンバリン、ウッドブロックなどの楽器を演奏し、一体感を得るドラムサークルを行った。楽器ごとにリズムをかえ、最後に全員で合わせた。音楽の基本であるリズムを多くの人で共有することで言葉を使わないコミュニケーションが存在することにつながっているという感覚を味わうことができた。また、モザンビークの留学生による太鼓の演奏がとてもすばらしく、児童も感動していた。



（参加者全員でドラムサークル）



## 環境

### ① ワークショップ（身近な紙について考える）

グループに分かれて、身近な紙製品を挙げて模造紙に書き、発表した。アイスブレイクも兼ねて簡単なゲーム形式で行った。この活動を通して、木材が原料となる紙を数多く使っていることを実感した。

### ② 紙の作り方

紙や木材の顕微鏡写真を見せていただき、木材からどのようにして紙が作られるか教えていただいた。また、和紙の原料である「みつまた」をアルカリで煮たサンプルを見たり触ったりして、固い木材から柔らかい繊維が取り出されることを実感した。紙が木材の「細胞」からできており、「アルカリ」という化学の力で取り出せることを学び、理科の学習と生活がつながっていることに気付いていた。



（紙製品の発表）

### ③ 紙すき体験

まつやまりサイクル館の館長さんや大学生や中学生の協力のもと、包装紙や牛乳パックを原料にしてはがきを作る紙すき体験をした。思い思いの色や模様の包装紙を材料にして、はがきづくりに取り組んだ。児童からは「もっと作りたい」「家でもやってみたい」などの感想が聞かれ、どの子も出来上がったはがきを手にして満足な様子であった。



（紙すきの説明）

### ④ 紙と環境、いろいろな機能をもつ紙

古紙のリサイクルをはじめとして植林、水やエネルギーの有効利用、古紙回収など製紙業界で取り組まれている環境対策を紹介していただいた。簡単なクイズを解きながら児童はいろいろな観点から環境保護に取り組むことができることを実感していた。また、「燃えない紙」「手でさわると色が変わる紙」などいろいろな紙を紹介していただき、発想によっていろいろな製品を作り出すことができること、そのために技術が重要であることを学んだ。



（いろいろな紙の説明）

## 食

### ① 食に関する話・クイズ等

食グループは、J A えひめ中央の協力を得て地産地消のよさや必要性、旬の食材（果物）の機能（栄養・成分）、旬の食材（果物）のおいしい食べ方について、それぞれ話を聞いた。普段食べているものが、どのような環境で育っているのか、それをどのように食べるとおいしくいただけるのかなど、営農指導員さんや野菜ソムリエさんから話を伺うことができた。



（指導員さんから果物が育つ様子を聞く）

### ② 旬の食材（果物）をつかったおやつ作り

旬の食材を地元で採れた旬のフルーツをふんだんに使ってデザートを作り、味わうことで、野菜ソムリエの方に聞いた旬の食材の機能やおいしさを体感することができた。また、新玉公民館女性部の方々が各グループにつき、児童のおやつ作りの安全や衛生面に細かなアドバイスをしてくださったおかげで、児童は充実した活動を行い満足していた。

【調理】 いちじくのジャム  
桃のコンポート  
ブルーベリーソース

【食材】 いちじく、桃、ブルーベリー、  
砂糖、レモン、パン他

（J A より 提供）



（野菜ソムリエ津川氏とコンポートづくり）



（女性部の方の協力のもと実習）

### ③ 作ったおやつの試食

協力して作ったおやつを、みんなで試食した。食べ比べながら、いちじくジャムやブルーベリージャムの口当たりや甘さ、自分の好みなどをそれぞれが言葉で表現する姿があった。地産地消の旬の食材で作っていること、さらに自分で作ったという喜びも加わって、よりおいしく味わうことができた。



（全員で作ったおやつの試食）



## キャリア

① 自分の将来について考えた。

② 外国の暮らしと仕事について

外国での暮らしや仕事について、写真や資料を見ながら、様子を聞いたり、質問をしたりする中で、児童が自分の将来について考えた。



(外国の暮らしについて話を聞く)



(外国の布を身にまとう)

③ ワークショップ (はぎれでティッシュケースを作る。)

アフリカの布を自分で選び、型紙に合わせて裁断し、ティッシュケースを作ることにより手作業の良さを感じたり、友達と作品を見せ合うことで関わり合う力を伸ばしたりすることができた。



(ティッシュケースの作成)



(協力しながら作成)

④ 振り返り

もう一度、自分の将来や夢について考え、友達と話し合い、今日の活動を振り返った。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）  
☒ 時間外活動の時間を使用  
☐ ユネスコクラブの活動として実施  
☐ その他（ ）